



使っている花 ■ スカビオサ(テライチゴミルク、フリフリホワイトエルサ)、リュウココリーネ(ディーセント)、コデマリ、豆の花

3 月
March



スカビオサ

花言葉 風情 / 再起

春の花の詰め合わせ
ふんわり愛らしい花籠弁当はいかが

プロが伝授!花を長く楽しむアドバイス

- 花首がしっかりした、中央部分の花粉がふいていない花を選んでください。家に持ち帰った際花に元気がない場合は、「湯あげ」をして深水にしばらく置いておくと復活します。
- 高温が苦手な花なので、できるだけ涼しい場所に飾りましょう。
- 切り花栄養剤が有効で、日持ちがよくなるうえに花も大きく咲いてくれます。

お家で簡単! 3ステップアレンジ

- ①最初は長いまま楽しんで、切り戻して短くなったところでこのようなアレンジを楽しむのもよいですね。複数の小さめのグラスに水と適量の切り花栄養剤を入れ、浅めのカゴにセットします。花はそれぞれ短めにカットし、水に浸かる部分の下葉はあらかじめ取り除きます。
- ②コデマリの小枝をカゴからややあふれるようにあしらいます。カゴを縁取るようにスカビオサをふわっといけます。上から見た時に花顔が横並びにならないよう気を付けましょう。
- ③リュウココリーネや豆の花をやや長めに軽やかにいけます。桜色のスカビオサで、春のお祝いテーブルに飾っても素敵ですね。

金平糖のようなかわいらしさ

小花が集まってふんわり咲く花姿は、ファンシーに留まらない大人っぽい表情も魅力。野山に自生する原種の松虫草がなじみ深いですが、切り花で出回る可憐な草花・スカビオサはまさに野性美と人の美学の融合。昨今個人育種家の手で生み出される、濃淡さまざまな色合いや花弁数が多い日本のスカビオサは、その完成度の高さと海外でも人気に!

